



かつて、兼六園には4つの亭があったと言われており、「滝見之亭」(夕顔亭)「馬場之御亭」(内橋亭)は現存しており、今般の長谷池周辺事業により、「高之御亭」(時雨亭)と舟之御亭を復元しました。



復元和室内部



復元和室より長谷池を見る

時雨亭

江戸期のものと思われる全体の間取図と正面外観の一部を描いた姿図より三方に土間庇をめぐらせた2室と「御囲」の部分の復元を行い、旧時雨亭の平面を基本としながら現代の利用に供しうる座敷棟を南に接続した。構成意匠は成巽閣、長流亭を参考にしつつ当時の庭園建築としての再現に努めました。

屋根は柿葺きとして、外観は屋だるみを付し、棟に石(滝ヶ原石)を置いた。加賀の伝統技術を活用し、拭漆塗、加賀象嵌を用いた。木材も極力県産材としました。

DATA

金沢市兼六町地内
平成12年3月完成
W造：1F
延 207㎡



舟之御亭

DATA

金沢市兼六町地内
平成11年11月完成
W造：1F
延 13㎡

舟之御亭

亭寛政期に描かれたと伝えられる絵画より、舟の形をした四阿であることから庭の風景に融合しうる建物として計画しました。



便所棟

DATA

金沢市兼六町地内
平成11年3月完成
W造：1F
延 62㎡

便所棟

時雨亭との調和を重視し、配置、外観を配慮しました。